

編集後記

●「メッセージ」は、東京都の佐々木健・下水道局長にご執筆いただきました。東京都では、時代の変化に伴い顕在化している課題に対して様々な取り組みを進めています。その中で、長期的な視点に立って下水道サービスのさらなる向上を図るため、令和3年3月に「経営計画2021」（令和3年度～令和7年度）を策定しました。また、浸水対策の推進に向けた「下水道浸水対策計画2022」の策定、総合的な治水対策の強化に向けた「東京都豪雨対策基本方針」の改定等を行い、施策を推進しています。このほか、震災対策の強化、エネルギー・地球温暖化対策等も着実に進めています。令和6年7月30日からは東京ビッグサイトで「下水道展'24東京」が開催されます。東京都でもテクニカルツアー等を予定しているそうです。多くの関係者で賑わうことを期待しています。

●「エンジニアリングレポート1」では、①「下水道事業におけるディマンド・レスポンスの活用～インセンティブ型DRを中心として～」、②「下水道管路内浄化システムに関する研究」、③「下水処理場における省エネ型送風機導入促進に関する共同研究」、④「下水処理場におけるN₂O排出量削減技術に関する共同研究」について報告しています。また、「エンジニアリングレポート2」では、令和5年度に実施した、国土交通省および地方公共団体の政策支援に関連する共同研究の概要を紹介しています。

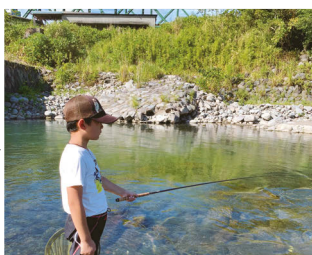
●「研究室探訪」では、東京大学の春日郁朗准教授の研究室にお伺いしました。現在取り組まれている、薬剤耐性菌に関する研究の概要や下水道事業の持続に向けた思いなどを聞かせていただきました。上下水道の持続に向けては、「現場の方々としっかりコミュニケーションを取ることが大切であり、『学術的な新規性、重要性』と『現場の課題に寄り添う視点』を併せ持つことが重要である」とお話しいただきました。

●「トピックス」では、国土交通省上下水道審議官グループの上下水道企画課、大臣官房参事官（上下水道技術）、水道事業課、下水道事業課の方に集まっていたいただき座談会を開催しました。各課の業務内容をご紹介いただいたほか、令和6年4月の水道行政移管に当たっての思いや意気込み等を伺いました。上下水道一体となったことで、より効率的・効果的な取り組みが進むことを期待しています。

●「技術活用の現場から」では、琵琶湖流域下水道高島浄化センターにおける下水汚泥のコンポスト化事業について紹介しています。同事業は、全国的に事例の少ないDBO方式を採用したもので、製造したコンポストは地域に向けて販売されます。コンポスト化事業の導入に至った経緯や臭気対策の工夫等を伺いました。

（編集委員一同）

表紙の 写真



次世代に向けた新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、こどもの写真を表紙のシリーズとして掲載しています。

今号の表紙の写真は、本機構・研究第二部の高橋副部長のお子さんと3人兄弟の次男、慧吾（けいご）くん9歳です。

この写真は神奈川県を流れる早川に、おじいちゃん・お父さんと3世代で鮎釣りに行った時の1枚です。ボーイスカウト活動もしていて釣りが大好きな慧吾くんは、真夏の暑い中、楽しそうに川の中に入って良い場所を探します。今回は毛バリ釣りで大きな鮎を釣り上げていました。下水道や浄化槽の働きによって、鮎などが元気に育つ水環境を保っていることも知ってもらえたら、本機構としてもうれしく思います。

下水道機構情報

No. 40
2024年7月

令和6年7月12日発行

発行者・編集者 塩路 勝久

機関誌編集委員：清水 久子／西 修／津戸 正也
加藤 伸孝／森岡 真弓／渡辺 太郎
吉田 聡／廣兼 武／郷野 梨夏

発行所 公益財団法人 **日本下水道新技術機構**

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512